自分たちだとそれぞれの言葉でうったえます。

参加した青年は、政治の主体は

広がりは日本の民主主義の新たな発展の可能性を示し

行採決を受けた国会前の抗議行動(7月15~17日)に都道府県(7月30日現在)に上ります。衆議院での強

させています。 戦争法案に反対して空前の規模で広が 全国にとどろく青年の声と行動が、安倍政権を震撼

7月の青年中心のもので24

日

Z

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ 科学的社会主義の学び 新国立競技場問題

(6、7面)

(3面)

(10、11面)

原発再稼働と火山 安倍政権揺るが



## 全国に広がる 设争法案



スティクス」と呼ばれま

惟の行使を容認する―を挙 じの治安活動③集団的自衛

出るのが苦手」という由美

▲安倍首相への手紙を読む芝田さん 党の志位和夫委員長から追 す。衆院の審議で日本共産

用」を認めました。それは 闘地域」での「武器の使 及された安倍首相は、「戦 での戦闘になります。 憲法が禁じる自衛隊の海外 大多数の憲法学者が「違 どの世論調査でも国民の 採決後に発表した世論調査 発案にする<br />
ために<br />
国民と共 政治を認めず、戦争法案を 立法」と厳しく糾弾。独裁 国」に道を開く最悪の違憲 げ、『海外で戦争をする にたたかい抜くと強調しま マスメディア7社が強行

としました。「後方支援」 うもので、兵たん=「ロジ の実際は「戦闘地域」で弾 法案の違憲性をごまかそう 薬の補給や武器の輸送を行 に通用しない造語を使って 一武器の使用」など国際的 悦する独裁政治です。

おばあちゃんに 『ありがと

毎週金曜日に国会前で戦争

<sup>応位委員長は、戦争法案の</sup> や立憲主義、法の支配を無 保特別委員会、16日の衆院 ん活動②自衛隊の戦乱地域 **啄の「戦闘地域」での兵た** に「断固反対」と討論した られた政府は15日の衆院安 「違憲性」について①自衛 衆院本会議で、強行採決 うになりました。「人前に 隊にいる友だちがイラク帰 奪われ、兵士も心を病んで の時、イラク帰還兵の講演 還兵のような体験をしてほ 標にされると知り、「自衛 いたことが心に残った」と 会で「子どもの命が簡単に しくない」と声を上げるよ ん部隊は真っ先に攻撃の目 言います。国会論戦で兵た た有川由美さんは高校3年

**万奈さん(大学3年)の声** は風のように、熱気渦巻く ルズ―自由と民主主義のた 3」と安倍首相への手紙を んだSEALDs(シー 怒りと絶望を感じてい の幸せ守りた ありません。ここにいる、 えるこの景色が私に希望を 主主義も、この国の未来も 与えてくれます。安倍さ いんです」「この場から見 小さな幸せを平和と呼ぶ 聞く幸せを。 私はこういう し、こういう毎日を守りた あなたの手の中に、民 1)

との表れ」と言います。

め、青年が政治の主人公と

に広がりました。熊本では

強行採決への怒りは全国

(右表)。

しての自らの力を実感でき

る場となっています。

(大学4年) は「力強さ

あります」「ベビーカーに 考え、構築し続ける責任が 国会前を吹き抜けました。 にちは平和について真剣に 条を保持する国として、私 <sup>持たない国として</sup>、憲法9 一被爆国として、軍隊を 私たち一人ひとりで勝ち取 %のスピーチができて良か く中で、今の自分の100 後日、「あれだけの人が聞 りましょう」。芝田さんは いか考えるきっかけになれ を考えて、安倍政権のして いることがどれだけ合わな った。みんなが自分の幸せ シールズは6月5日から

の怒

を感じて本当に変えていけ

熟気と叫びが混じり合って 男性 (大学2年) は「汗と 始。スピーチやコールなど だった行動は回を追うごと じて広がり、初め千人規模 法案に反対する行動を開 な怒って、うったえたいこ 圧倒された。それだけみん SNS(ソーシャル・ネッ **^ワーク・サービス)を通** に増えていきました。 首相官邸包囲に参加した 参加者の危機感を受け止 氏主主義が壊されるという 内閣不支持率、 ると思った」と話します。 抗議行動は、戦争が迫り 支持率 不支持率

	▼14元	小文14元
毎日	35%	51%
共同通信	37. 7%	51.6%
ANN	36.1%	47. 0%
朝日	37%	46%
FNN	39.3%	52.6%
読売	43%	49%
日経	38%	50%

ではいずれも内閣の不支持 率が支持率を上回りました

対×若者デモ」(主催は私 す@熊本)を行い、600 が20日、「戦争法案絶対反 人が集まりました。参加し たちは戦争に反対していま モをしたい」 という青年ら 「国会前や渋谷のようなデ

番」。今回のデモでは次々

に増える途中参加者を目の

来のために声を上げる

姿でした。「今度は私が未 デモに参加していた両親の さんの背中を押したのは、

当たりにしました。「同じ

若者は『無関心』なんかじ

ゃない」(2面につづく)